

令和5年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和5年5月13日（土）10時～12時
- 開催場所 新木近隣センター
- 参加者 市民26名
- 出席者 星野市長、山元企画総務部長、中光財政部長、海老原市民生活部長、山本環境経済部長、篠崎建設部長、中場都市部長、担当課長等28名

市民：2点要望がありまして、まず1点はごみ回収についてですが、現状、毎週回収となっている資源ごみのうちで、古紙類と繊維類とあと金属類、この三つについては、ごみステーションを見るとごみの量が少ないように見受けられまして、我孫子全体でこの辺の量を調べていただいて、もし量が少ないようであれば、不燃ごみと同じように、隔週回収にさせていただければと思います。そうすれば、多少なりとも経費節減にはなると思います。あともう一点は、道路管理についてですが、現状我孫子市の方で管理されていて、住宅地にある道路でゾーン30に指定されていない道路が結構あるように見受けられます。この辺は、小さいお子さんとか、最近高齢者も増えてますので、そういった住宅地でゾーン30に指定できるようなところがあれば、地元自治会の方との意見調整などもしながら、積極的にゾーン30に指定させていただければと思います。以上です。

環境経済部長：ご質問ありがとうございます。今日は担当が来ております。4月にクリーンセンターから手賀沼課資源循環推進室という部署が新たに出来ましたので、そちらの担当からお答えさせていただきます。

資源循環推進室長補佐：資源回収についてご質問いただきました。年間の資源の回収量なのですが、少し前になりますが、我孫子市令和3年度の資源回収量が8,123tです。資源回収ということで、古紙を含め空き瓶や空き缶、金属とか食用油といろいろあるのですが、そのうち古紙の量は3,776t、古紙の割合は半分弱ぐらいで、40パーセントか50パーセントぐらいを占めており、量としてはかなりありますので、週1回という形での頻度でやっておりますけれども、実際に収集の場所での古紙の量が毎回少ないということでしょうか。実情として、量的には結構あるのですが、各収集場所によっても事情は異なると思いますので、そのあたりは委託している回収業者とも調整して確認をしていきたいと思っています。

建設部長：ゾーン30について、お答えいたします。規制の関係になりますと、所轄の警察署を通じて県警本部とも相談しなければいけないと思います。今日、道路課の職員が来ています。特定な場所とか、それから皆さんの総意とかもあると思いますので、後ほど場所などを教えていただければと思います。よろしくお願ひします。

市長：ごみについては、南新木は少ないのかもしれないですけど、他の地区では凄まじく多いということもあります。市内全体を見ながら、判断をさせていただきたいと思います。1ヶ所だけ減らしたからといって、そんなに大きな費用負担にはならないと思っています。そこについては、トータルで判断をさせていただきたいと思っております。そして、先ほど言いましたようにゾーン30については、地元の自治会から声が上がって、当然、警察と協議をした上で、地域の合意が得られれば、設置をしていくのですけれども、合意をしているならば、そこに住んでる方々は、規制を受けることとなります。そこについては、自治会周辺の道路沿線の皆さん全員がその方向でいいのかどうかも含めながら、警察と協議をしていきます。市では規制がかけられません。規制関係は全て警察となります。信号ですとか横断歩道などと同じように、窓口としての受け付けは、まずは地元の警察で、その後県警本部へ、そして公安委員会といろんなところを協議してから決まります。今、我孫子市内で設置されているのは、合意が取れたところです。設置をしたくても、結局地域の合意が取れなくて、設置ができなかったところがいくつかあるということもご理解いただければと思います。

市民：气象台記念公園の件ですが、そこに防犯カメラが設置されていないような気がします。他の方に聞いたら、すごく費用がかかるので設置できませんということでした。あの場所は、夜でも人が来たり、結構車も置いてありますし、業者さんがそこに置いている場合もあります。かなり広い公園ですから、防犯的なことも考えていただきたいと思います。今、信号のことを市長さんはおっしゃられましたけれども、この間も公園の前で3台の事故がありました。横断歩道があるのですが、私は、年寄りですから渡ろうとしても止まってくれないのです。たまに止まってくれる方もいますが、あそこは信号をつけていただきたいと思います。と思っています。

それから、私の自治会は、理事会の人数が60人ちょっといるのですが、最近引越してきた方もいらっしゃるようですが、もうみんな年寄りばかりなのです。

私は今78歳になりますが、もう80歳の方とか、もっと高齢な方が自治会の役員を仕方なく当番制でやっています。これは、どうしたらよいのか。この先どういう運営していったらいいのか。若い人もいるのですけれど、昼間は働いているし、そんなに人数はいないのです。市に委託するとやってもらえると、そういうことをいう方もいらっしゃるのです。私が当番でたまたま会長になったのですが、明日、草取りの大掃除があるのですけれども、みんな腰が痛くて出てこられないとか、そういうことがあるのです。だから、これからの組織のことが心配で、どういうふうにして運営していったらいいか分からない。そういう高齢者の多い地区の理事会のこともちょっと考えていただきたいなと思います。

市民生活部長：防犯カメラについては、市の方で自治会などが設置する際に、限度額20万円でありますけれども、2分の1の補助を行っています。自治会の方で、例えば气象台公園に防犯上設置したいということであれば、市民安全課の方にご相談下さい。ただ、今つけたいと言われても、予算の関係上難しいというお話はおそらくあったかと思うのですが、市の単費ではなくて、県からの補助もいただきながら補助していますので、事前にご連絡いただいでご相談下されば、公共性の高いところについては、市の方も設置は推進しております。具体的な場所とか一度ご相談いただければと思います。よろしく願いいたします。

次に、自治会の高齢化ということですが、特にこの新木地区、布佐平和台地区ですとか、そういった住宅地が我孫子の中でも早くに自治会ができたようなところは、かなり高齢化が進んでいて、高齢化率の高いところだと50%を超えているような地区はあります。これは行政としましても、様々な支援など、いろいろ工夫は考えているのですが、これといった個別の事案等が自治会にあって、なかなかその明確な答えが出ない状況です。ただ、高齢者であっても、我孫子市の場合元気な高齢者の方が多くて、要介護率も他市と比べると低い状況にあります。高齢化が悪いという話ではなくて、元気な高齢者を作っていくというのが我孫子市長をはじめ、健康福祉部の考え方でもあります。自治会を担当してる部長としても、高齢化が進んでいる自治会をどうやって支援していくのかというのは非常に答えを苦慮するところです。今後ともそういったところを考えながら、自治会の支援に向けて行っていきたいと思います。すいませんお答えになってなくて申し訳ございません。

市長：180を超える自治会があって、そのうちの高齢化は半分以上のところでは少しずつ増えていく一方で、同じような悩みを聞くのですけれど、それを市がどこまで

フォローできるのか、それを全部、例えば市の職員でやるとしたら、今の税収では賄いきれませんから、どこまで市が手伝えることができ、どこの業者に委託して、そうするとうちの自治会の人たちからは別の料金も支払えるかだとか、若い世代の人たちからは、あの自治会は負担をしないで、そこだけは市の税金が使われるのか、というまた難しい問題になってしまいます。その人たちの自治会もいずれ高齢化が進んでいきます。今若い街と言われても、30年、50年で、この比率が逆転していきますから、そういうことも含めながら、どういう支援をその高齢化が進んでいる自治会に行っていけるかというのは、我孫子だけではなくて、当然他の地域や街でも同じような課題が出てきている状況になってきています。ただ、なかなかいい方法がどこの街でもないという状況の中で、少しでもどういう支援ができるかというのを、もう少しお時間をいただければと思っています。

信号機については、先ほど言ったように、県の予算になります。県警の交通関係の予算をもっと増やしてくれないと設置が進まないという話は、県議を通して県にも伝えているところです。10年ほど前は、大体年間60機設置できました。54市町村だから、大体年に一つは信号機が付いていた状況でした。最近はLED化を進めているのですが、そうすると設置費用が高くなって、一つの街に年一カ所も設置できないという状況です。そういう状況の中で警察としても、信号機の更新をしながら、本当に必要なところというか、極端に言ったら死亡事故が起きないと優先順位が上がらないというような状況になっていて、信号関係の予算の増額をお願いしているところであります。横断歩道を渡ろうとしてる人がいるのに、一時停止をしないで通過をする車については、警察も切符を切るようになっています。我孫子地区でも切符を切られる人が出始めていますので、气象台公園前も情報提供として、警察の方にお伝えさせてもらいます。それで少しでも止まってくれるようになるかと思えます。もう一度、啓発活動をしていく必要があるというふうに感じました。横断歩道を渡ろうとしている人がいる時に、一時停止しないと切符を切られますよ。と、自治会の方からも啓発していただければというふうに思っています。それを各自治会で行えば、少なくとも我孫子市民の皆さんも気をつけていただけると思っています。皆さんが気をつけてくれた分、少しずつエリアが広がっていくだろうというふうに思っています。

市民：私たちの避難する場所は、气象台記念公園のところなのですが、雨が降ったりしてる場合は雨に濡れますよね。正式な避難場所は、この新木近隣センターに

来るらしいのですが、ここまで歩いてくるにはかなりの距離があるので、どういふふうになるのか。ちょっとお聞きしたいと思います。

市民生活部長：一時的に避難するということは、高台のところや气象台公園ですとか、そういったところに集まっていただくことになります。その後、安全が確認できた段階で、近隣センターなどに避難所として来ていただくような流れになります。ただ、新木地区で避難が予想されるとすると、利根川の氾濫ですとかそういったものが予想されると思います。利根川が氾濫となると、こちらの方は利根川でもかなり下流の方になりますので、上流の方でかなり満水状態が続いたときには、我孫子市の方で事前に避難情報を流します。上流の栗橋のあたりで満水となった場合でも、約6時間の時間的余裕がありますので、時間に余裕を持って行動していただければというふうに考えます。

市 民：4月から自転車の安全運転ということで、ヘルメット着用という呼びかけがされていると思うのですが、努力義務なのです。まだ、法律になっていませんけど。昔はシートベルトの努力義務から始まって、今、法律化されてシートベルトをしなければいけないというふうになってます。何事においても行動する場合、安全第一だと思うのです。安全第一を考えたときに、いわゆる一家に1個のヘルメットがあるわけでもないのに、災害等でいろいろな活用ができると思います。こうしたことを踏まえて、市でもそういったPRを積極的にしていただけたらありがたいなと思いますので、よろしくお願いします。

交通政策課長：昨年度までは市民安全課の方でそういった関係の業務を扱っていたりするのですけれども、今年度からは、建設部の交通政策課という部署が扱うことになりました。ヘルメットの着用が努力義務化ということで、皆さん自転車に乗られる機会、特に趣味で乗ってる方についてはヘルメットを着用されてるようすけれども、まだ普通の自転車とか買い物に行かれる時だとかは、なかなかヘルメットの着用が浸透していないという状況です。警察の方からも要請を受けておりまして、随時ポスターやパンフレットをいただけるようお願いしているところです。届き次第、PRしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。

市 民：あびバスと阪東バスのことで、コロナの関係でオンデマンドとかいろんな計画が中断しているということなんですけど、その後どうなってますか。

建設部長：オンデマンドというか、今、布佐駅から天王台駅までのシャトルバスの計画をしているところだったのですが、まだルートや停車する場所が決まっていません。今年度中には決まるかと思います。ただ、今のところオンデマンドという話ではないと言えるかと思います。

市民：本日、そちらのひな壇の方に女性の部長がお座りになっておられるのは、私の知っている限り初めてじゃないかと思います。これは我孫子市にとっても、いいことだと思います。それで我孫子市のこれからの方向性についてお聞きしたい。それと今回クリーンセンターの工事がありましたが、今後行政改革があるのかどうかお聞きしたい。

企画総務部長：これからの組織改編については、令和4年度については部の改編、令和5年度については、クリーンセンターの完成に伴いまして課の改編等を行ってきたのですが、基本的には、社会情勢、国の仕事の進め方など事務の割り振り等を随時検討しながら、必要に応じて組織的に効率的になるように組織改編を考えながら進めていきたいと思っております。

市長：こちらの左の座った女性の部長は初ということですが、実際は女性部長としては初ではないのです。いつも、ふれあい懇談会に来る部署の部長としては、初の女性部長です。今まで、健康福祉部長あるいは、こども部長、生涯学習部長が女性部長となっています。その3部署について、今までふれあい懇談会には出席していない女性部長はいました。ふれあい懇談会で目にするのは初の女性部長かと思います。私自身も人事の中で、男性だから女性だからというのは気にしていません。それぞれの部長課長を含めて、能力のある職員は男女を気にせず配置していくつもりですので、ご理解いただければと思います。今日、司会進行を担当しています職員ですが、今年から女性秘書課長として昇任され、我孫子市で初となります。県内でも54市町村中で3人位は女性秘書課長がいます。当然ながら、それは男だから女だから関係なしで採用しているというふうにみていただければと思います。女性職員の中で、今管理職である課長補佐以上は2割を超えて25%位、課長職以上で20%を超えているという状況です。約4分の1は女性管理職という状況です。5分の1位が女性課長がいるというふうに理解していただければと思います。女性部長は13名のうちまだ1人ですが、いずれ男性部長の方が少なくなるかもしれません。今、我孫

子は若い女性、元気いっぱいの女性がたくさんいます。特に先ほど言いました女性課長がだいぶ増えてきています。様々なところで、お見かけするかと思いますけれども、ぜひ声をかけていただければと思っています。

市 民：私どもも住みやすい我孫子のために協力したいと思っています。今回もゆうゆう公園のキャンプ広場の整備ということがありました。そこで、安全安心対策というのであれば、先ほども出ていました气象台記念公園に防犯カメラを設置するということはしないのでしょうか。サッカー場やラグビー場を作れば、人が集まる、人が集まればゴミの問題が出てくる。私の先輩にもいますが、サッカーをやっている意識不明となり亡くなった人がいて、その管理施設にAEDをつけてくれるとか計画の中で考えてくれているのか、わかりませんが。ゴミや防犯カメラ、AEDの問題など、安全安心が忘れられているのではないかと思います。

市 長：ご指摘頂いたことは重々わかります。当然、我孫子市にも財源的に限度がありますから、どこから財源をつけていくかという話になると思っています。防犯カメラについても、まず公共施設や駅周辺からつけ始めました。それ以降については、自治会として必要としているかどうか、現実的に犯罪が起きてるかどうかということです。あちこちの公園全部に防犯カメラをつける必要があるかどうか。夜は誰も使わないところにつける必要があるかどうか。当然、税金にも限度がありますから、AEDの設置にしても、市で行うとしたら、まず公共施設から、その次に24時間営業のコンビニからです。今回は自治会館、自治会集会場に設置しようということになりました。それも建物の中ではなくて、外に付けてくれるところから優先順位をつけて検討を始めています。一気に市内全部あれもこれもできないということは、ご理解してくださるというふうに思っています。その中で、安全安心だけを優先して、例えば心休まるような運動施設、あるいは図書館施設、こうしたものをほっといても、先にAEDとか防犯カメラや照明をしっかりとつけていくことで、それだけで生活しやすい街なのだろうかということを考えれば、当然市民の皆さんが楽しみにしているものを行っていく必要があると私は思っています。市内のスポーツ施設でいえば、野球場はたくさんあります。サッカー場はゆうゆう公園にしかない。そのサッカー場も秋の台風シーズンには数ヶ月使えなくなる。そうすると、秋の大会が組めなくなる。今、子供たちを見て分かるように野球少年とサッカー少年も半々ぐらいです。これは、我孫子市内でスポーツをする子供たちの圧倒的な数、そしてそれをサポートしてる大人の皆さんもたくさんいてくださる。だから

こそ、子供たちが一生懸命やれる。そしてその中であっても、今回WBCが話題になりましたが、現在千葉ロッテのコーチをしている金子誠さんは、少し前まで侍ジャパンのコーチでした。湖北中の卒業生です。また、今回サッカー日本代表として、中村敬斗選手が招集されましたが、彼は我孫子中の卒業生です。

いろんな分野の子供たちがいる中で、皆さんが優先順位として求めてくる声がたくさん出てきます。その中でやっぱり毎年順番を決めていくしかないなので、毎年の予算の中でどれから先にやるかという状況になります。だから、防犯カメラの設置についても、まず子供たちの安全を守るために小中学校と保育園、幼稚園からスタートしました。次に駅周辺にしました。その中で順番を決める時において、このふれあい懇談会も一つのきっかけとして意見を聞きます。1人の方の意見だけを採択しようとは思っていません。その周辺の人たちは、みんな同じ考えなのかというのを確認したい。自治会の中で話し合ってくださいというのはそういうことです。

湖北中の子供たちが部活の帰りに、このはけの道を通ってくる時に、犯罪に巻き込まれそうになったケースがあると私も聞いています。犯罪が起こってからでは遅いということは分かるのですが、こういう人通りの少ないところは、遠回りしてでももっと明るいところを通って帰るといっても指導の一つだというふうに思っています。そういったことを踏まえながら、一つずつ順番を決めながら進めていきたいと思っています。

また、我孫子では、市民プールのようなものは今後作らない方向で考えています。学校のプールの維持費は大体1校当たり1,000万円かかります。民間に委託することによって約300万円です。学校のプール授業の中で、子供たちが忘れ物をしなくなりました。以前は、水着を忘れたというとプールに行かなくても済むから、忘れ物が多かったのですが、それがみんな忘れなくなりました。また何年も泳げなかった子が泳げるようになったと報告を受けています。学校の先生には水泳の指導者はいないのです。ですから、民間に委託をすることにいたしました。例えば、プール開放事業を夏休みに行っていますが、これも民間のスイミングスクールに委託はできないかという話をしているところです。ただ、我孫子には三つの民間のプール、スイミングスクールがあります。そこと話をしていますが、二つのところが中学生までということを受け入れてくれることになりました。民間であるものと民間でないもの、ここについては分けていくしかないと思っています。私も子供の頃、手賀沼公園のプールに行きましたが、イモ洗い状態だったので、これだったら中学校のプールの方が家から近い方がいいなと思いました。ただ、当時は学校のプールは一般開放していませんでしたので、学校のプールを工夫すれば、市民プール

を作る必要はないと思いました。ただ、ウォータースライダーがあったり、回るプールがあったり、そういう遊び心のあるプールがないというのが現実ですけれども。以前は、年間300億円以上の予算編成ができませんでした。現在は450億円の予算編成ができるようになりました。子育て支援策についても、医療費助成が以前は4歳まででしたが、高校3年生まで対象になりました。ただし、逆に他のところを少し削らなくてはいけないというものもあります。一つずつ優先順位をつけながら予算編成をしていきたいというふうに思っています。その中でも、このふれあい懇談会でいろんな方が様々な提案をしてくれるのを参考にさせていただきながら、来年度に向けて順番をつけていきたいというふうに思っています。AEDの設置についても、ここに付けてくださいと要望があったから付けてしまうと、市としての公平性が保てません。他のエリアでも同じようなところがあるかもしれないので、誰でも使えるという条件で補助を出していきましようというスタンスにさせていただきました。AEDは、学校や保育園にもありますが、緊急な場合は、賠償請求したりしませんので、窓ガラスを割ってでも使ってください。ただ、それが近くにないところについては、自治会の皆さんと話し合いをしていきたいと思えます。うちの自治会は会館の中に置くか、あるいは外に置こうか、という議論をしていただければ、市としても協力いたします。そして、置いたからといって安心ではなく、使えなければ意味がありません。この設置については、定期的に自治会の皆さんにも救命講習を受けてもらうことにしていますので、その辺もご理解いただき検討していただければと思います。防犯カメラの設置について、气象台記念公園の周辺には、提案された方が多いということが確認できれば、それを合わせながら、警察とも協議行っていきたいと思えます。

市 民：湖北駅と新木駅を結ぶあびバスは、1日に6本しかないのです。これを増やす方策はないですか。

市 長：阪東バスも3年間のコロナの影響でかなり乗る人が減ってきています。阪東バスの親会社は東武バスなのですが、その親会社からもこの路線を廃止しようと言われている我孫子市内の路線がいくつかあるようです。そうすると、乗らなければ廃止になっていくし、本数は増えませんが、どの時間帯に多く乗るのかによって、その時間帯が増えるのは当然のことだというふうに思えます。

新木駅と湖北駅を結ぶあびバスも、国道356号線を走る阪東バスの路線バスを再編しながら、布佐駅から天王台駅までの速達性を重視するのか、この地域を回るバス

とこれを一緒にできないかという検討をしていたのです。コロナの影響が長くなれば、皆さんが乗らないということは、必要がない路線ということになってしまいます。通常考え方からすれば、その中でこのバスを増便しようとするのは、これから皆さんが乗るんだという意思表示であると言わざるを得ないのです。それも含めながら、どこからどの区域が一番必要で、どこからどの時間帯が必要だということをテストしたかった。ただ、コロナの影響で3年間実施できなかったというのが現実です。これから阪東バスさんとお話をしながら、ここ新木から布佐にかけて、布佐から湖北にかけて、いまある阪東の路線バスとあびバスルートの再編、阪東バスが撤退してしまったらもっと本数が減ってしまうので、それも含めながら、チェックをしていきたいと思っています。コロナもやっと、この5月8日からインフルエンザと同じ類型になりましたから。今年の秋ぐらいには実証運行ができればと思っていますので、今、阪東バスさんとも相談をしているということを理解していただければと思います。ただ、実証運行してみたら、皆さん相変わらず乗らないとなると必要はないという判断をせざるを得なくなってしまいます。そこについては、実証運行をいつから開始しますという時には、ぜひ皆さんも乗っていただいて、確かにそこは必要な路線で、この時間帯が一番必要としているというのを確認する試験運行だということを理解していただき、ご協力いただけるとありがたいと思っています。その時、本数を増やすということは、バスが早めに行って帰ってこないで本数は増えませんから、あっちもこっちもゆっくり回っていくとそれだけ時間がかかります。そうすると、バスが1台では足りないという結論になります。2台にしようとする、そこに投入するバスを購入しなくてははいけません。それも含めて、今の金額でできるかどうかという検討と色々なテストをしていきたいと考えており、最終的な結論に結び付けていくという予定です。まだ、確定したわけではないということです。